

# 和光の緑と湧き水だより 会報 Verda 144

NPO 法人 和光・緑と湧き水の会 会報発行 2014年9月号 代表理事 高橋絹世 (462-9912)

身近な自然を知って守り伝えよう <http://wako-wakimizu.org/>

26年	全体会	新倉ふれあいの森	白子・大坂ふれあいの森(地域の会と協力して)	樹林公園
9月	湧水環境調査(白子湧水7日 越戸川25日) 白子湧き水子ども探検隊(6日)	20日 定期保全	3日 富沢湧水保全と モニ1000調査 18日 定期保全	ヒロハア マナ保全
10月	湧水環境調査(井戸) 昆虫さがし・森あそび(11日) 市民活動見本市樹林公園(11日) 湧き水の会研修会白糸の滝(30日)	4日新倉ふれあいの 森の観察会 (秋をさがそう) 25日 定期保全	7日(予定)モニ1000調査 16日 定期保全	11日昆虫 さがし森 あそび

## 1. 初任者研修会の講師として講義 8月18日

平成26年度教育委員会による初任者教師研修会が8月18日に開催され、大久保昭男教育長による講話の後に、「郷土を知る～白子の湧き水～」と題して高橋勝緒さんの講義が行われました。この講義は、和光市を知らない新任教師が、和光市について学び、和光市の郷土としての特徴を知り、これからの指導に役立たせて行くためです。昨年に続き2回目、24名もの若い先生方が参加し聴講されました。

### 郷土を知る～白子の湧き水く身近な自然を知り・守り・活かす～



武蔵野台地末端部の地理的特徴である「白子の湧き水」を知ってもらい、その周辺には貴重な動植物が生育し、小中学生が触れることのできる環境が残っていること、その環境を保全し将来に残していこうという湧き水の会の活動を交えた講義でした。

また「児童生徒が自ら考える理科授業」について、一方的な知識の伝達ではなく、生徒が体験(実験など)を基に科学的知識を構築する授業の事例紹介もあり、大変熱心に聞いてくださいました。

当会員も講義を聴く事が出来、会の活動の理解が深まりました。

## 2. 夏休みボランティア体験「和光の里山保全体験」中学生・高校生14名参加



26年度のボランティア体験は、白子湧水群、樹林公園、新倉に加えて大坂ふれあいの森を含めると、市内4か所、5日間の日程で「和光の里山保全体験」を行い、14名の中高校生が参加しました。毎回地域の環境を知る初めての体験で、自然の保全の大切さを学びました。自然や環境について話も直に聞く事が出来、良い環境学習になります。このようなつながりが後継者育成になることを期待します。

## 3. 白子川河床を歩き流入水調査 8月7日

26年度和光市協働事業の一環として白子川に入り湧水環境調査を実施しました。真夏の太陽が照りつける中、調査員9名が朝8時半に熊野神社に集まり、事前に借りた鍵で川にかけられた柵を開け、川に降りる鉄梯子を慎重に降り、白子川調査をスタートしました。白子川は、寺前橋から新東埼玉橋までは川沿いを歩けますが、それより上流は子安橋まで川沿いの道がなく、川をまったく見ることもできません。この機会に白子川の河床から湧水や周辺の環境を見てみよう、当会では初めて実施し、湧水の流入などを確かめました。

